

～ 急性・重症患者看護専門看護師の役割と活動 ～

急性・重症患者看護専門看護師（以下、急性・重症患者看護CNS）は、日本看護協会が認定する専門看護師の領域の中の一つで、緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供し、患者本人とその家族の支援、医療スタッフ間の調整などを行い最善の医療が提供されるように支援する役割があります。

急性・重症患者看護CNSは、救命センターやICUに所属している職員だと思われる方が多いと思います。私も以前は救命センターICUに所属していました。

救命ICUではさまざまな経験をしましたが、中でも集中治療領域で終末期を迎える患者家族へのケアに興味を持ちました。救命ICUで終末期を迎える患者は、事故や突発的な病気の発症、慢性疾患（心不全や呼吸不全等）の急激な悪化が多く、がんの終末期とは様相が大きく異なります。救急車で搬送された患者を数時間以内にお看取りすることも多く経験しました。時間的猶予のない中で、最期まで救命を目指すのか、それとも看取りを決断するのか、どうすることが最善なのか医師やスタッフと共に模索しました。しかし、救命ICUで



ミニカンファレンスの様子

患者らしい最期を迎えることを目指すには、終末期に入ってからでは遅すぎる、救命救急領域だけでは解決しないことに気がつきました。その頃、終末期も包含するエンドオブライフケアという考え方を知り、博士後期課程でエンドオブライフケアを学びました。エンドオブライフケア学会では、エンドオブライフケアを「すべての人に死は訪れるものであり、年齢や病気であるか否かにかかわらず、人々が差し迫った死、あるいはいつかは来る死について考え、最期までその人らしい生と死を支えること、ならびに生と死を見送った家族が生きることを指すケアである。」と定義しています。病とともに生きる患者家族と向き合う看護師にとって、エンドオブライフケアは日々の看護そのものではないでしょうか。

現在は急性・重症患者看護CNSとして、そしてエンドオブライフケアEN（エキスパートナース）として外来センターで働いています。どちらの専門領域にも共通することは、疾患も病期も限定されないことです。だからこそ他領域のスペシャリストや多職種との連携・協働を大切にしています。CNSとして主に外来での急変対応や検査室での呼吸管理等の実践や教育、相談、調整等を行い、ENとしては患者さんらしい生を全うできるよう、外来から始めるACP（Advance Care Planning）の取り組みをスタッフと一緒に始めています。この取り組みが少しずつ広がり、患者さんが療養している場にかかわらず、線でつながる継続看護の実現を願いながら、スタッフと共に看護を行っていきたいと思っています。